

# AMCoR

Asahikawa Medical College Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

日本医師会雑誌 (2006.10) 135巻特別号(2):S162.

【最新臨床検査のABC】 検査項目各論  
生化学検査(2) 血清蛋白など  
シアル酸

高後 裕、鳥本悦宏

## シアル酸

異常値

44～71 mg/dl(酵素法)

### 臨床的意義

- ① シアル酸は、ノイラミン酸のアシル誘導体の総称で、糖蛋白や糖脂質などの糖鎖成分の一部として存在し、血漿中のホルモン、抗体、凝固因子など、重要な機能蛋白や急性相反応蛋白と結合して認められる。したがって、各種の急性相反応蛋白や免疫グロブリンが増加する感染症、膠原病などの炎症性疾患では、これら蛋白の総和を反映して高値となる。また、シアル酸は受容体分子などの細胞膜構成成分として、生体に広く分布しており、広範な組織破壊の際にも血清中に放出され高値を示す。このように、シアル酸は、特定の疾患の診断根拠となるのではなく、CRPなどと同様に炎症や組織破壊の有無を幅広くスクリーニングしたり、その強さや広がり、重症度などの病態把握や治療効果の判定などに利用したりする。
- ② 一方、シアル酸含有蛋白の多くは肝臓で生

成されるので、肝蛋白合成機能障害で低値となり肝機能障害の指標となる。

- ③ 生理的な血清濃度に性差はないが、加齢により増加する傾向にある。また、妊娠中は血清蛋白量の増加を反映して増加する。

### 異常値を来す時

#### ④ 高値を示す病態

- ① 炎症性疾患や細胞破壊によって高値を示す。たとえば悪性腫瘍においては局所での急速な進行時期や転移期に高値をとることが多く、これは腫瘍細胞の増殖に加えて周辺臓器・組織の急激な傷害・破壊や炎症の合併の結果と考えられる。また、代表的な炎症性疾患である関節リウマチや全身性エリテマトーデス(SLE)などの膠原病や、細菌を主体とした感染症、心筋梗塞などの臓器梗塞(破壊性)疾患、甲状腺炎や腎炎などの炎症性組織傷害、手術や外傷などの組織損傷などで増加する。

#### ⑤ 低値を示す病態

- ① 急性肝炎では組織での急性炎症を反映して比較的高値をとるが、肝障害が進展して肝細胞での蛋白合成が障害されるような進行した肝疾患(肝不全、肝硬変、肝癌、慢性肝炎)では低値となる。

(高後 裕・鳥本悦宏)